

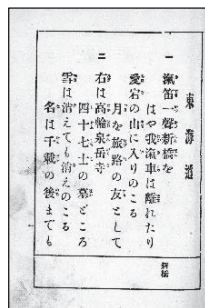
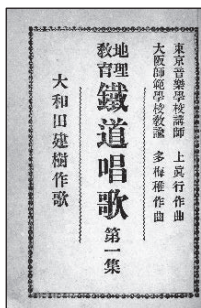
ちりきょういくてつどうしょうか

＃20 地理教育鉄道唱歌 第1～5集

作歌：大和田建樹（おおわだ・たけき 1857-1910）

作曲：多梅稚（おおの・うめわか 1869-1920）ほか

刊行：明治33年（1900）



※左より、第1集の中表紙、楽譜、p.1「東海道」



♪ 解題

■ 内容

「汽笛一声新橋を」の歌い出しで有名な、老若男女を問わず大流行した唱歌である。明治33年（1900）5月に第1集の「東海道」が1部6銭で発行されると、瞬く間に反響を呼び、その年の10月までに第2集から第5集が続げざまに刊行された。発行部数の合計は1千万部と言われている。

歌詞には国内鉄道沿線の地名や名所旧跡をはじめとして、民話や伝承、名産品等が巧みに詠み込まれ、全5集・通算334節で日本各地を巡る。

各集には2種類の楽譜が付されており、歌い手は好きな曲で歌うことができる。当時の一流の音楽家達が競作したが、多梅稚による曲が最も広く親しまれた。

本書の成功により、他の出版社も類似の唱歌集を相次いで出版した。当館では、同年9月に出版された小川尚栄堂による冊子『地理教育鉄道唱歌 第2 上野 高崎 信越間』を所蔵している。

■ 作者

全 334 節の歌詞を手がけたのは、愛媛県宇和島市出身の国文学者、大和田建樹である。『明治文学史』『日本大文学史』等の国文学関係の著作の他に、奥好義と共編の『明治唱歌』全 6 集や、『地理教育世界唱歌』上下巻、『海事教育航海唱歌』上下巻等の多数の唱歌を発表した。

各集に掲載された譜面のうち、その旋律が最も大衆からの支持を集めた多梅稚は、本書の作曲当時は大阪師範学校の教諭だった。明治 35 年（1902）に母校の東京音楽学校（現・東京藝術大学）教授に就任し、退官後は大阪の音楽界の発展に貢献した。

発行者の三木佐助（みき・さすけ 1852-1925）は、出版事業の他に楽器の輸入事業でも成功を収めた人物で、本書の出版時には楽隊と歌手を雇い入れ、大々的な宣伝活動を行ったという。その会社は、大阪市に拠点を持つ老舗楽器店「三木楽器」として現在も続いている。

♪ 構成

第 1 集「東海道」には 66 節が収められている。第 1 節で新橋を出発すると、4 節で「川崎の大師河原」を紹介し、以後は「トンネルの前後は山北小山駅」と歌う 13 節まで神奈川県内を巡る。

第 1 集と第 2 集「山陽、九州」には、多梅稚と、当時東京音楽学校で講師を務めていた上真行（うえ・さねみち 1851-1937）による 2 種類の譜面が掲載されている。続く第 3 集「奥州線—磐城線」の中表紙と奥付には、作曲者として東京華族女学校教師の奥好義と、東京音楽学校助教授の田村虎蔵の名前がある。しかし、実際には多と田村による楽譜が掲載されており、奥は巻中に収録されている「松島船あそび」の作曲を担当している。第 4 集「北陸地方」には、学習院助教授の納所弁次郎（のうしょ・べんじろう 1865-1936）と、女子高等師範学校助教授の吉田信太（よしだ・しんた 1870-1954）が曲を寄せた。

第 5 集「関西 参宮 南海各線」は、中表紙及び奥付には多と奈良師範学校教諭の目賀田万世吉（めがた・ませきち 1867-1930）の名前があるが、実際には多による 2 種類の楽譜（1 つは第 1～3 集に掲載された曲と同じもの）が掲載

され、目賀田は巻中の「奈良めぐり」に曲をつけている。

♪ 類似の唱歌集

- ・『地理教育鉄道唱歌 第1～4集』大和田建樹作詞 上真行作曲 三木佐助 1900 [SH767.6/1/2]
- ・『地理教育鉄道唱歌 第2 上野 高崎 信越間』小川尚栄堂 1900 [SH767.6/40]

♪ 参考文献

<復刻>

- ・『地理教育鉄道唱歌 1～5/別冊』国書刊行会 1987 [767.6/166/1～6]

<参考文献>

- ・『歌の旅行案内：鉄道唱歌の作者をめぐる人々』中島幸三郎著 日本交通文化協会 1957 [K76/67]
- ・『鉄道唱歌物語：“歌の旅行案内”の生誕と作者をめぐる人間哀史』中島幸三郎著 交通日本社 1964 [760.4/92]
- ・『汽笛一声新橋を：決定版・鉄道唱歌物語』中島幸三郎著 佑啓社 1968 [K76/68]

※中島幸三郎による上記3冊の著書について、著者本人は『汽笛一声新橋を』の「あとがき」の中で、それぞれを「初版」「改訂版」「決定版」と呼び表している。

- ・『なつかしの鉄道唱歌』大悟法利雄著 講談社 1969 [767.6/103]
- ・『定本日本の唱歌』堀内敬三著 実業之日本社 1970 [767.6/110]
- ・『日本の唱歌 上』金田一春彦・安西愛子編 講談社 1977 [767.7/118/1]
- ・『唱歌・童謡ものがたり』読売新聞文化部著 岩波書店 1999 [767.7/213]
- ・『鉄道唱歌の旅 第7版』大和田建樹作歌 交通博物館ほか編 交通文化振興財団 1999 [686.21/39]
- ・『鉄道唱歌の旅東海道線今昔：愛唱歌でたどる東海道本線各駅停車』原口隆行著 JTB 2002 [K68/373]
- ・『唱歌・讚美歌・軍歌の始源』小川和佑著 アーツ・アンド・クラフツ 2005

[767. 02/4]

・『日本鉄道歌謡史 1 鉄道開業～第二次世界大戦』松村洋著 みすず書房
2015 [767. 8/536/1]

・『三木楽器史』三木楽器株式会社社史編纂委員会監修 田中智晃編著 大阪
開成館 2015 [S673. 7/M/1] ※県立川崎図書館所蔵

・『三木楽器資料集：三木楽器史別冊』三木楽器株式会社社史編纂委員会編
修 大阪開成館 2015 [S673. 7/M/2] ※県立川崎図書館所蔵

・『鉄道唱歌と地図でたどるあの駅この街』今尾恵介著 朝日新聞出版 2016
[686. 21/119]

・『唱歌教育の展開に関する実証的研究』嶋田由美著 学文社 2018
[375. 76/10]